



農政課題解決研修情報

農政課題解決研修(革新的農業技術習得支援研修)事務局 (連携普及部 連携普及企画室(担当:大島))
電話 029-838-7599

<研修実施状況>

○総合的病害虫管理と難防除病害虫の防除技術

中央農業総合研究センターでは、10月23日～25日にかけて、標記に係る研修を実施し、北海道から沖縄までの25都道府県から38名の普及指導員、行政担当者、病害虫防除所職員等が受講しました。受講生の専門は、病害虫防除を中心に、野菜栽培、果樹栽培、経営、担い手支援など、多岐にわたっています。

本研修では、農研機構と農環研の独法研究者と県の研究者、大学教員の15名の講師が、天敵を利用した害虫防除を中心に、薬剤抵抗性管理や臭化メチルに依存しない土壌病害防除技術など、総合的病害虫管理において今最も注目されている問題について、講義と実習を行いました。

新たに日本に侵入してきた外来害虫の情報や、天敵の分類同定実習などは、初めて実物を目にする受講生も多く、今後の現場対応で大変役に立つと予想され好評を得られました。また、実習では講師に直接質問や相談ができ、現場での問題について解決方法のヒントなどが得られたという意見もあり、受講生の約9割の方から高い評価を得られています。

現場ですぐ使える技術を中心にした研修だったため、未経験者にはやや難しい内容も含まれていたこと、受講希望者が多かったのもっと少人数でじっくり指導を受けたいという意見が多かったなどの問題もありました。また病害についての講義を増やしてもらいたいという要望が複数あり、レベルや病害虫の項目ごとに分けられたさらに細かい研修が求められていることが分かりました。

総合的病害虫管理については受講希望が多く、また毎年新たな問題が発生することから、今後も最新の情報を盛り込み、より充実させた内容の研修を開催したいと考えています。

(担当:中央農業総合研究センター 業務推進室 三枝)



カブリダニ類の分類同定実習



クモ類の分類同定実習

○小麦の品質評価技術

作物研究所では、12月5日から12月6日にかけて標記に係る研修を実施しました。受講生は8県から9名の参加でした。当研究所から小麦の育種と品質評価を専門としている研究者5名と、中央農業総合研究センター渡邊和洋上席研究員、北海道農業研究センター田引正上席研究員を講師として、1)小麦の品質評価法、2)最近の小麦を巡る情勢、3)麦類の生育・収量に及ぼすFOEASの効果、4)小麦の品質概論、5)めん・パン用等小麦の新品種育成動向と製粉・加工適性等から見た品種特性及び栽培特性について、実習と講義を行いました。

当所のオープンラボにおいて各種調製・加工・分析機器を用いた実演を交えて行った小麦の品質評価法の実習や、小麦の品質概論の講義は、品質や加工に関する基本的な知識が得られた、加工適性が非常に重要なことがわかり今後生産者等へ麦の品質向上を喚起する際の参考になった等、受講生の方々に好評でした。

また、小麦を巡る情勢や新品種育成動向の講義についても、麦に関する国の方針や、パン・めん用品種を巡る情勢、現在の育種の概要が良く理解できたと高い評価をいただきました。

研修後のアンケートでは、「もう少し日程に余裕があった方がよかった」「実習の時間を増やしてほしい」などのご要望が出されましたが、研修全般を通して概ね良好な評価をいただきました。

(担当:作物研究所 企画管理室 熊谷)



加工適性からみた品種および栽培特性に関する講義



小麦品質評価法の実習